

聖句

十方の諸の刹土に於ける、衆生の
菩薩の中のある法報佛も、
化身も及び変化も皆無量寿の
極樂界中より出づ
『大乗入楞伽經』

眞 生

第78卷 475号

<http://canchiin.net>

1・4・7・10月15日発行
【発行所】
眞生同盟本部
〒105-0011
東京都港区芝公園
2-2-13 観智院
【振替】
00160-6-80674
【電話】
03(3431)1450
【Email】
shinsei@canchiin.net
【編集兼发行人】
土屋 正道
会費 年額 2,000円
一部 100円

十方の諸の刹土に於ける、衆生の
菩薩の中のある法報佛も、
化身も及び変化も皆無量寿の
極樂界中より出づ
『大乗入楞伽經』

私の念仏の歩み（3）

土屋 正道

念仏せざるを得ない。

毎日、なにかしら「大きいなるもの」に心を向けるようになりますと、自然と念仏を申す機会が増えます。哀しいとき、苦しいときは勿論ですが、楽しいとき、嬉しいときにも念仏を称えること

（474号より）
念仏により身も心も安らかになる。自分の内に仏を感じる。
念仏を申すうちに「如來のおいのめされました。理屈などどうでにならないところはない」とか、「如來の威力と恩恵とにより活き働きができる私」と何か感じる機会が増えました。とは云つても、いつもは、オレがオレがで過ごしていました。

そんな折、私はある事件で打ちのめされました。理屈などどうでにならないところはない」とか、「如來の威力と恩恵とにより活き働きができる私」と何か感じる機会が増えました。とは云つても、



れみ、なんとか救おうとする御苦心と同じなんだなあ。いや、私の中に現に觀音様がいらして煩惱にまみれた私を哀しんでいらっしゃるんだなあ。」と感じる瞬間がおとずれました。苦しみの中から感謝が沸き起こる不思議な感覺でした。溺れるもの藁をもつかむではありませんが、私に「念仏があつてよかつた」と思いました。

念仏成仏ではなく、念仏往生とされた深い慈悲のお心、なんとかして、少しでも多くの者を救い摂ろうという仏様の大いなる願い、宇宙に満ち満ちている慈愛のようなものを感じるようになりました。

信仰の基礎がかたまり、一心に

だけ自分の至らなさに気づかされますので、恥かしい思いになることもあります。私は私だからこそ」と、マイナス思考をプラス思考に転じて眠ることができます。

「こんなわたしでも、いやいや、こんな私だからこそ」と、マイナス思考をプラス思考に転じて眠ることができるようになったと思いません。念仏の中に、「私」という輪郭がぼやけてきて、仏様に包まれている感覚、宇宙の一部としての「私」を感じる経験がありました。今の生活は「念仏を『第一』と

しているか」と問われている気がいたします。いや私が忘れていても、念仏により私が活かされているのだ、と感じてまいりました。自分の心身の活動が、仏の自利他の活動と一緒になる。

神人合一、生仏不二、天地一体。念仏するものは自ずからこの妙境に到達すると言われます。残念ながらまだ遙かに及びません。しかし私は私なりに必ずそうならさせて頂けると信じて念仏しております。仮の種(靈性)が開発され、

仏の使命を遂行する身とならしていただく。その行動が人類最高文化創造に寄与すると信じて、願いをおこし、行していくことが大切です。

第一章 人生の真意義

一、人生の根本要求

吾々は永遠の生命と無限の向上とを要求する、之が吾々の根本要求であります。吾々は何故か何處までも死にたくない、たとい此の肉身は亡びても、此の魂は永劫に死にたくないのです。

そして吾々はたとい此の世では思うようにならなくとも、やがてはだ大切なことは、仏様はどの段階においても念仏すれば必ずお救い下さると信じて、日々刻々、念仏の生活がしたいのです。

工夫をし精進して行くことだと思っています。

何となれば宇宙は一大生命であり、万有の本源であり、吾々の帰趣すべき一大光体であるからであります。吾々がどこまでも死にたくないと云う心も、よくなりたい

いと云う心も、此の宇宙の生命に帰らんとするの欲求であります。一度吾々の生命が此の宇宙の大生命に触れるとき、吾々は自己の生命を放擲して此の宇宙の生命に帰ろうとし、此の宇宙の生命に懐かれて、限りなき喜びと望みと力との生活を覚ゆるに至るのであります。之を仏教では仏界と云い、涅槃界と云つてはいる。人生の目的は要するに此の仏界に入つて、此の涅槃の妙境に安住するにある。人生の帰趣またこれに他ならぬの生活がしたいのです。

然るに多くの人生は未だ此の事を知らず、ただ徒らに永生と向上とを求めるの本能はあるが、眞の道に生くるの自覺のあるものは少いのであります。されば吾々はいかに生くべきかこれを明かにすることが吾々の努力であり、

『心のふるさと』(昭和三十一年二月発行)

土屋 観道 上人(眞生同盟初代主幹)

これを実践することが吾々の使命であります。

二、三種の生活

然るに人類の生活に三つの段階があるようであります。

①自然人の生活……これは肉欲的生活であつて、原始野蛮時代の生活であります。ただ自然のままに、野獸の如き動物的生活であります。それは自己保存と種族保存とが中心となつて、弱肉強食、生存競争の生活であります。即ち自然のままの生活であります。

②文化人の生活……これはすべてを人間の力によつて、合理化しようとする所謂理智主義の生活であります。また主觀を以つて客觀を改造し、支配しようとする人間万能の生活であります。けれどもこれはまだ自己を以つて他を思うようにしようとする支配思想であつて、他者（自己にあらざるもの）の存在を認めず、よしこれを認むると

生活であります。これを自己の便宜上にしても、これを自己の便宜上にしようと云う感が止まないのであります。

ます。所謂今日の文化運動がそれであつて、自己そのものの反省や改造が殆ど顧みられぬ生活であります。

③宗教人の生活

……これは前者に比べて、神仏を認むる生活であります。世には自己以上の力ある絶対者を認めてこれによつて自己の至らざるを反省し、またこれによつて自己の使命を果たそうとする永遠の生命と無限の価値に生きようとする生活であります。

第一は自己天然の本能に生き五感的肉欲の生活に没頭するに対し、第二は社会的平和の為に種々の工策を構じて、此の土を安樂ならしめようとする理性の働きを為すのであるが、第三は永遠の生命と無限の向上とを求めて、自己以外の絶対者の存在を認めるの生活であります。

これは人類の生活無智の生活から理智の生活に到り、更に人類の進歩は理智の生活にあき足らずして、ものが多かつたり、或はたまたま一步宇宙の大生命にまで合一せざれば止まない宗教的生活にまで進んで来たからと云うべきであります。

然し今日の社会は未だ第三の生活にまでは至つておりません。従つて、人類は常に永生を欲し、向上を望んでいるにかかわらず、

（続）
これ吾々がどこまでも自己の生活を反省して、真に宇宙と共になるの生活を求むる所以であります。

二河白道（一）

（『ラジオ放送「浄土宗の時間」放送法話
—善導大師さまから法然上人へ—』）

昭和5年3月14日

土屋 光道 上人（眞生同盟二代主幹）

「ひとすじの道」という題のもとに、中国唐の淨土教の大成者であられた善導大師の「二河白道」のお話しをさせていただきま

す。この二河白道のお話しさは、善導大師が『觀無量寿經』というお経の注釈をなさった『觀經疏』と

し上げてみましよう。ある旅人が
たつた独りで西の方に向つて遠い
旅をしていました。ところが突然
大きな岸邊につき当つたのでござ
います。見ると、遙か向う岸に渡
るには、それはそれは細い細い、
さしわたし十五纏もあるかないか
の白い道が続いておりました。と
ころが、その道の左手、即ち南側
には、大きな火の河が、反対の右手
北側には、これまた大きな水の河
がありました。左の火の河は、恐
ろしい焰が炎々と燃えさかって道
を今にも焼き尽くそうとしていま
すし、右手の水の河は滔々と波が
逆卷いて、今にも道を崩そうとし
ています。夫々の河は、はてしな
く広く、底知れぬ深く、その炎と
波とが恐ろしい勢で左右からこも
ごも迫つて、はさまれた白い道は
今にものみ込まれそうでした。旅
人はその怖さにおののいてとても
白道を前へ渡ることは出来ません
そこでもとの道をうしろへ引返そ
うともどりかけると、沢山の物凄

い盜賊や怪獣が襲い掛かって来ます、岸に沿つて左右に逃れようとすると、これまた、恐ろしい妖怪変化や毒蛇毒虫が向つて来る。前後左右、全く進退きわまつて旅人は身も心もすくんでしまいましたやがて旅人は、しょせんどちらへ行つても必定と覺悟をきめ、焰に焼かれるか水におぼれるかわからぬが、もはや、この一筋の白い道を一步二歩踏みしめて、ひたすら西の岸をめざして前進する以外に助かる方法はないと心に決めたのでした。

います。ところが、この現実の人生には、さまざまな盜賊や妖怪や毒虫に警えられる外敵、すなわち、生老病死の四苦八苦、無常の風が次々と襲いかかり悩ますのです。私どもは日夜、貧乏や病気や圧政といった外敵に攻めたてられ、それらと闘つて自由を得、仕合せになろうともがいていますが、次々と押寄せる外敵に逃れるすべを失っているのが、この人生のありのままの姿ではないでしようか。何という恐ろしいことでしょう。

外敵を逃がれて、なおも、幸福を求めて進んだとき、忽然として眼の前に、大きな水の河と火の河が

います。ところが、この現実の人生には、さまざまなものに悩まされ、また、生老病死の四苦八苦、無常の風が次々と襲いかかり悩ますのです。私どもは日夜、貧乏や病気や圧政といった外敵に攻めたてられ、それらと闘つて自由を得、仕合せにならうともがいていますが、次々と押寄せる外敵に逃れるすべを失っているのが、この人生のありのままの姿ではないでしょうか。何という恐ろしいことでしょう。

外敵を逃がれて、なおも、幸福を求めて進んだとき、忽然として眼の前に、大きな水の河と火の河が行手をさえぎっているのに気が付くのであります。この「水の河」とは、われわれすべての人の心の底に滔々と波立っているあくことなき「むさぼり」の欲心であり、「火の国」とは、心中に炎々と焼えたる、おそろしい「いかり」の心であります。

普段は何事もないようでいて、いざとなるとこの逆巻く波のようにあくことを知らぬ貧婪な「むさぼり」の欲心が内から湧いてくる。一寸したきつかけで、今迄ニコニコしていた人が、眼は三角につり上り拳をふりあげ、心がいかりに煮えたぎって、相手を焼き殺すほどのことをしでかす。この水と火とに譬えられる欲望と怒りが我々の心に次々とあらわれて、せつかくの幸福への前途をさえぎつている。我々のそうした人生のありのままの真相を善導大師は巧みに表現してお説きになっています。わが身にてらしてようく味わつてみましょう。(続)

この「むさぼり」と「いかり」

であります。

一千礼拝行

二〇一九年二月十六日(土)

参加者

蘇安松堤三葉早高王張田柵東海王川酒局金中諸土
田田澤浦水橋中川林野井子村澤屋
三千輝明祐銘麗孝隆紅靜典正洋次明立正正
穗子慧一心嬌道雄薈媛幸隆麗誠空郎生道俊道
港港港板北橫港市松港



一千札挂行参加者と共に

土屋法道 土屋遥恵生 土屋宗隆 佐々木幹隆 和澤裕和 藤澤道子 服部裕子 小泉子 飯塚穀子

春彼岸会

二〇一九年三月二十三日
（土）
参加者（各家代表者）
東京　土屋正道

中廣長谷小吉久上林佐加藤廣山大奧近矢黑谷土
村田沼島田米田藤藤澤田田櫛村藤野田口屋
立耕郁朋清晶晴密記武利恵子子子子成明和子
道子香子一子彥則



春彼岸法要



清興（ジャズ演奏）

神奈川	田中典幸
武石勲	法身・報身・應身三身即一にま
西浦珠未	しますの大みおや、阿弥陀如来さ
西浦剛仙	まに申し上げます。
千葉	田中典幸
埼玉	武石勲
東京	江草喜美子
土田明裕	金丸昌弘
蘇田三千穂	土田明裕
田口忠男	田口忠男
土屋由恵	酒井正空
法道	土屋由恵
土屋遥	田口由紀子
土屋法道	土屋法道
土屋由恵	土屋由恵
酒井正空	田口由紀子
土屋由恵	田口由紀子
土屋法道	土屋法道
土屋由恵	土屋由恵
酒井正空	田口由紀子
土屋由恵	田口由紀子
土屋法道	土屋法道



法要・法話（観智院）



追悼会（ホテルオークラ東京）

ての親さま・教えの親さま
における眞生同盟例会に引き続き、
ホテルオークラ東京において、平
成十九年四月十一日七十歳を一期
として浄土に往生された
土屋悦子さま

第十三回忌に際し、観智院・多
聞院法類檀信徒・眞生同盟会員は
か、寺族・親族友人等一堂に会し
念佛を称え、追善回向の法会を営
みます。

光悦大姉は、観智院第二十二世
眞生同盟二代主幹多聞院第三世
の土屋光道上人に二十一歳で嫁ぎ
五十年内室として、寺門の興隆、
檀信徒を支えることのみならず、

内にあつては、「一男一女、孫五
人を授かり、「みんな仲良く」を
モットーに土屋家、宇野家のみな
らズ親戚・親族の和合に勤め安心
を与え笑顔の中心でありました。
阿弥陀如来さま

私どもの真心の念佛をお聞き届け
ください、光悦大姉の仏果増進極
楽での修行が早く成就して仏様にな
つていただけますよう、また還
來穢国土人天私たち迷えるもの
世界に戻って一人でも多くの方々
支え、笑顔にしてくださいますよ
う恩寵をお授けくださいませ。

これ時平成三十一年四月七日元
祖法然上人御降誕の日に
観智院二十三世・眞生同盟主幹
信譽正道敬つて申す

慎み敬つて、生みの親さま・育
表白

参列者

土屋正道・小林正道・新谷仁海
江草喜美子・遠藤幸子・遠藤智士太田裕子・大谷隼夫・岡村涌亮
岡村龍子・城所和代・小島清一小杉萬希・小林千賀子・酒井正空
佐藤利恵子・佐藤美智・白川令子新谷陽子・蘇田三千穂・大門豊英
大門裕紀・大門愛・田口忠男田口由紀子・武井孝晴・武井篤子
田中典幸・谷口英夫・野島満子服部道子・濱田伸・濱田美佐子
濱田夏美・濱田春那・稗貫光遠藤澤裕子・堀 タイ子・森 弘
森 恵子・森 納理・森 摩理森 強・森 厚子・山田 景
上田密記子・土屋由恵・土屋 遥

土屋法道



比叡山飯室谷松禪院 念仏道場

中野善英上人報恩

松禪院追善念佛会

「東京の中心で 仮の名を呼ぶ」

◆十四時三十分(林海庵(多摩市・東京))

中野晃了上人
笠原泰淳上人

四月十三日(土)～十四日(日) 参加者

第十四回増上寺二十四時間

不断念仏会

◆十五時(ハレイワ淨土院(ハワイ))

本年の第十四回増上寺二十四時
間不断念仏会は諸般の事情により、

江崎晃司上人

例年の五月ではなく四月二十六日
二十七日の開催、平成最後の不断

円光大師堂大念珠繰り(圓光大師

堂)

念仏会となりました。

◆十六時(

当日は、一九八名の方々が増上
寺会場に来場くださいり、十七ヶ所

法城寺(碧南市・愛知)

から道友の皆様が念仏中継をして

石川乘願上人

くださいました。心より感謝申し

◆十七時(

上げます。

◆十八時(

念仏中継場所

志明之家(台北市・台湾)

南無阿弥陀仏

◆十九時(

四月二十六日(土)

菩提学苑(台北市・台湾)

阿弥陀寺(オーストラリア)
ウイルソン哲雄上人

◆二十時(

ヨーロッパ仏教センター

原源照上人

◆二十一時(

黄莉瑛氏

◆二十二時(

コロア淨土院(ハイ)

石川広宣上人

◆二十三時(

(フランス)

◆二十四時(

開明法師

高僧光隆上人

四月二十七日 (日)

◆○時

セントルイス (アメリカ)

◆五時

スティーブン・ビクター氏

イビウーナ日伯寺 (ブラジル)

櫻井聰祐上人

大江田晃義上人

ハワイ浄土別院 (ハワイ)

中野寛淳上人

◆七時

観智院 (港区・東京)

◆九時

長昌寺 (大分)

今井英之上人

◆十一時

サンアントニオ (アメリカ)

エリック・コーベン氏

◆十一時三〇分

台湾式念佛行道 (光摂殿)



第14回増上寺24時間不念仏会の参加者と共に

山崎弁栄百回忌記念法要

音楽法要

記念講演・シンポジウム

遺跡巡拝

五月十一日 (土)

～十三日 (月)

会場 光明学園相模原高等学校

本年は眞生同盟初代主幹・土屋觀道上人の師である山崎弁栄上人の百回忌に当たります。五月十二日 (日) には増上寺八木台下御導師のもと記念法事が執り行われました。

法要の始めには光明学園の生徒達が和太鼓演奏を披露し、また尺八やピアノによる演奏など音楽を取り入れた法要となりました。

また法要前日の十一日 (土) には、光明会主催の「法のつどい」が開催され、土屋正道主幹は眞生同盟代表として講演をいたしました。十三日 (月) は巡拝ツアーア「弁栄上人ゆかりのと遺墨展めぐり」が企画され、観智院・多聞院もそ



5月12日（日）音楽法要

の遺跡地の一つに選ばれ、当日は弁榮上人の遺墨を展示して、参拝者の方々に見ていただきました。
十月には「念佛フェスティバル」と題して、弁榮上人百回忌報恩の別時念仏会を企画しております。詳細は本号掲載のチラシをご覧ください。



5月12日（日）シンポジウム（左から近藤伸介氏・藤田庄市氏・藤本淨彦師・若松英輔氏）



5月11日（土）「法のつどい」での講演

港 豊 市 横 江 所 武 藏 杉 我
豊 橋 川 浜 東 沢 村 山 並 孫 子
市 市 市 区 市 区 区 市

大 新 横 港
新 宿 濱 長 野
宿 和 市 市 区

参加者

土	牧	服	川	田	酒	諸	中	蘇	山	金	高	王	鈴	真	早	石	福	古	田	幸	隆
牧	部	野	中	井	澤	村	田	田	丸	橋	静	昌	紅	岱	石	鍋	井	屋	正	道	道
由	朋	道	典	正	正	立	立	三	千	隆	遥	弘	薺	忠	希	水	孝	清	美	威	人
惠	胡	子	誠	幸	空	俊	道	穗		雄						東	道	人			



柏崎・椎谷觀音堂にて

琦	新	東	千	東	土	酒	岡	田	服	土	酒	井	与	岡	田	服	土	土	土	土	土
玉	潟	京	葉	京	屋	口	村	中	部	屋	正	正	口	明	中	部	道	屋	屋	屋	屋
					道	勝	郎	典	道	正	道	勝	郎	子	典	道	正	道	道	道	道

柏崎念佛修養会参加者

二〇一九年五月二十九日（水）
三十日（木）

六時礼讚別時念佛会
二〇一九年六月七日（金）
八日（土）

土屋 法道 遥



六時礼讃別時念仏会の参加者と共に

行事案内

比叡山松禅院

仲秋念佛大会

眞生同盟本部大会・文化祭
鎌倉大仏月夜の念佛会同時開催

第八回清淨華院

二十四時間不断念佛会

先師中野善英上人が唱道された

十月十一日(金)～二十日(日)

日時・九月二十七日(金)十三時
～二十八日(土)十四時
※本年は土日ではなく金土での開催です。

本年は、増上寺開山聖聰上人の自分を葬り新たな人生の出発を祈念して、発願・修行・結願の仲秋大会を開催いたします。道友一同力を合わせて念佛の法燈遵守、

会場・浄土宗大本山清淨華院

更なる念佛精進を誓願いたしました。

合掌

会費・五千円

しょう。

※ショート参加(約二時間)はワ

ンコイン

灯籠・ご志納二千円(事前申込)

日時・九月十五日(日)十三時～

ミニ灯籠五百円(当日申込)

十七日(火)十二時

持物・懐中電灯 雨具 防寒具等

道場・比叡山飯室谷松禅院

申込先

比叡山坂本駅よりタクシー10分

テ一〇五一一〇〇一一

不動堂の左奥

連絡・〇七七五一一七九一四八四〇

※会期中

港区芝公園一一一一三

会費・一泊三千円日帰り千円

FAX〇三一三四三一一七八〇七

持物・雨具、防寒具等

本行事特設メールアドレス

懇親会・二十七日一三時～

誤「裏千家茶道教室」

時開催いたします。

nenbutsu24@hotmail.co.jp

詳細は次ページよりのチラシ、

二十四時間不斷念佛会事務局

ホームページをご覧下さい。

メール

shinsei@canchin.net/

正「表千家茶道教室」
お詫びして訂正いたします。



第57回 真生同盟本部大会 (@増上寺)

日 時：10月18日（金）11：30～20日（日）12：30

内 容：第1日・開白法要念仏フェスティバル参加 第2日・秋の文化祭 第3日・念佛法話結願会

会 費：1日2,000円(昼食代、文化祭参加費含む)宿泊別途3,000円(例・2泊3日12,000円、1泊2日7,000円)

第2回 秋の文化祭 (@増上寺)

日 時：10月19日（土）10：00～20：30(予定) 真生同盟本部大会（10月18日～20日）併修

内 容：観智院・多聞院にて活動中の各種団体による体験教室、演奏会、タロット占い、またプロのジャズライブ・フラダンスなど。

参加費：2,000円(昼食そば付き、14：00以降入場の方は1,000円)

★茶道体験 ★書道体験 ★そば打ち道場デモンストレーション ★タロット占い ★和楽器演奏会

★浄土宗僧侶でジャズシンガーの花房尚美さんによるジャズライブ

★井畠京子さん率いるモニアケアラフラシスターズによるフラダンス

鎌倉大仏月夜の念佛会

日 時：10月14日（月）18:30～15日（火）7:00

会 場：鎌倉 高徳院境内 鎌倉市長谷4-2-28

会 費：4000円

行事申し込み先

FAX:03-3431-7807

Email:shinsei@canchiin.net

TIME SCHEDULE ☰

												開 同 時 期							
												◆8/28~12/23 「家康と観智国師展(仮)」@増上寺大殿地下1F 宝物展示室							
												◆10/13 ラグビーW杯パブリックビューイング@会場(未定)							
10/11	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30					
10/11	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂	⌚ 2 念仏行脚 @増上寺山内					⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/12	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂	みなと区民まつりも芝公園一帯で開催中！	⌚ 4 JAZZ ライブ @圓光大師堂				⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/13	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂	みなと区民まつりも芝公園一帯で開催中！	⌚ 6 礼讚(らいさん) @圓光大師堂				⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/14	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂	高徳院会場	⌚ 8 尺八ライブ @圓光大師堂				⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/15	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂	高徳院会場	⌚ 11 講演会 @圓光大師堂				⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/16	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂	増上寺主催イベント					⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/17	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂		⌚ 14 講演会 @圓光大師堂				⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/18	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂		⌚ 16 写仏 @圓光大師堂				⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/19	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂		恒例の観智院文化祭！今年も楽しいひと時をお過ごし下さい。				⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
10/20	⌚ 1 念仏会 @圓光大師堂	10:00～ 真生同盟同盟主催 観智院文化祭 書道体験・茶道体験・そば打ち道場デモンストレーション・箏教室の演奏会・タロットサロン / ジャズライブ・フラダンス	⌚ 18 大念珠縁り @圓光大師堂				⌚ 1 念仏会 @慈雲閣												
	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30					

GUEST

NENBUTSU FESTIVAL 2019 に出演するアーティストと講演を行う講師です。



ジャズシンガー
丸山 薫さん



ジャズギタリスト
山口 友生さん



尺八奏者
田辺 頌山さん



箏奏者
丸田 美紀さん



箏奏者
木田 敦子さん



和楽器バンド尺八奏者
神永 大輔さん



和楽器バンド箏奏者
いぶくろ聖志さん



尺八奏者
矢野 司空さん



尺八奏者
中村 仁樹さん



地唄三味線奏者
菊重 精峰さん



箏奏者
菊優 紹古さん



薩摩琵琶奏者
長須 与佳さん



落語家
柳家花いちさん



落語家
古今亭志ん松さん



ジャズシンガー
花房 尚美さん



フラダンス
井端 京子さん



ロックバンド「沙門」
豊島 邦博さん



箏奏者
大川 義秋さん



大正大学大学院
安 憲永さん



弁崇上人の書画研究
金田 昭教さん



建築家
伊坂 道子さん



観智院
酒井 正空さん